



光桂寺だより

第219号

真宗大谷派 光 桂 寺 〒838-0133 福岡県小郡市八坂201
TEL 0942-72-2432 FAX 0942-72-2486 印刷 片山印刷(有)

秋の永代経ご案内



お盆過ぎとなりましたが、ぐずついた天気が続いています。早く秋の気配を感じられるようになつて欲しいものです。

オリンピックも終わり、ひとまず穏やかになるかと思つていましたが、専門家の方々が予想されていた事が的中し、ウイルスの蔓延が進みだしました。歯止めが果してかかるでしょうか、予断を許さない状況であります。また政局の方も波乱含みで推移しています。色々な面で混沌としております。

敗戦後七十六年、戦争を知つてゐる世代が、いよいよ少なくなつています。戦争の記憶や教訓が薄れ、風化しようとしていることも、何となく感じられます。歴史に学ぶ事が如何に大切か、考えなくてはなりません。

色々な出来事や考え方、これまでの歴史など、まず疑問からでもいいので「考える人生」を送りたいものです。「よく見、よく聞き、よく考える」ことから、無意識をなくす努力こそ、忘れてはなりません。また自分の有りのままの姿に「気付く」ことも大変大事なことがあります。

ところで毎日の生活では、確実な歩みを進めなくてはなりません。その第一段階としては、自分自身に目を向け、ありのままの己の姿に「気付く」ことから始まります。そして仏さまの教えを聞くことが私の現在に氣付かれます。聞法の場を通して、今後の人生で何を求めていくか、摸索する時として、秋の永代経を迎えていただきたいと願つています。

門徒(門徒会)

寺

信仰の中心の場（聞法としての道場を開く）
ご法儀の流布（真宗の教えを広める場）
法人財産の保全維持（道場の維持保全）
寺族の生活の確立

寺の護持（経済的支援・淨財）
本山の護持（本山維持の淨財上納）
信仰を深める（聞法を深める生活で信仰を確立していく）

各家庭での信仰確立（本来あるべき家庭の確立）

期日 二〇二一年十月九日(土)

○○おとき 正午
○法 話 十四時

※ お世話前 八坂、馬渡
よろしくお願ひいたします。
八女市 浄慈寺様



講師紹介
島村宣澄 師
しまむら せん あつ のぶ じゅうせい
八女市立花町白木
浄慈寺住職

光桂寺と光桂寺門徒会の 関係を述べてみます

誠にありがとうございました。

九月

様

「夏の寺子屋」 弾む声、声、声！



「夏の寺子屋」を、八月四、五、六、七日の四日間開催しました。参加者は小学校五、六年生を中心に七十四名の参加者となり、中・高校生のボランティア二十七名の応援を得て進められました。

一日目は本堂でのお参りや法話、絵本の読み聞かせを楽しみ、昼は「精進料理の子ども食堂」での昼食をたん能、寺の裏の原っぱでの野外遊びも取り入れての一日でした。（精進料理の用意は、仏教婦人会の有志の方の協力を得ました）

二日目は本堂でのお参りの後、八女市の星野川めがね橋付近での川遊びを満喫しました。（大昌園小郡店から昼食の「焼肉弁当」の差し入れを頂戴しました）

三日目・四日目は、本堂裏の原っぱにテントを張り、一泊の寺子屋となりました。

三日目は本堂でのお参りの後、子どもたちによる昼食の用意。飯ごうでの「ご飯焼き」と「カレー」つくりを楽しみ、午後からは近隣のお宅の協力を得て、地域交流をしました。夜はキャンプファイヤーの火を囲み、バーベキューでお腹を満足させ、「語らい」や「肝試し」などをして盛り上りました。

四日目は、早朝のクワガタやカブトムシなどの虫取りにワクワクしながら過ごし、朝食後はご門徒有志の方から頂いたスイカでの「スイカ割り」を楽しみました。その後本堂の清掃を皆

で行い、最後は本堂でのお参りや法話、絵本の読み聞かせに耳を傾け、記念写真を撮り解散しました。

百二十名もの参加申し込みがありましたが、運営上無理と判断し、希望に応じる事が出来なかつた事については、大変申し訳なく思っています。

本堂いっぱいの子どもたちが、正座をしての読経の声とお念佛を唱える声、また外のセミの鳴声が印象に残る「夏の寺子屋」でした。



上山奉仕団は取り止めます

諸般の事情により、十一月予定していた上山奉仕団の募集はいたしません。

庫裏建設のこれから予定

建設委員会 十月十日（日） 午後一時半より

光桂寺総代会 十月十日（土） 午後四時より

門徒会総代会 十月十六日（土） 午前九時半より

**婦人会お磨き奉仕
ありがとうございました**

八月一日（日）

仏教婦人会役員さん、二十四名の参加いただき、雨の中でありましたので、仏具磨きをしていただきました。

謹んでおくやみ申し上げます
七月三十日

九月三日

九月三日

九月七日

久留米

末次

久留米

小郡